

足立参院議員

建設DX展を視察

通信環境の重要性実感



自民党の足立敏之参院議員は14日、東京都江東区の東京

ビッグサイトで13―15日に開かれた建設DX（デジタルトランスフォーメーション）展を視察した。メタバースやAI（人工知能）などを活用した建設分野の先端技術に接し、これらの現場導入に当たっては基盤となる通信環境の整備が重要と受け止めたとしている。

最初に訪れた杉孝の出展ブースでは、メタバースを活用した足場組立教育のコンテンツを試し、専用のデバイスを

装着して高所作業を疑似体験した。写真。

このほか、鉄筋の結束ロボット、施工管理アプリ、BIMを活用したクレーン施工計画支援ソフト、ICT建設機械システム、安全帯の不使用者をAIで自動検知するシステムなど、デジタルで建設分野を変革する先端技術に触れた。

足立議員は全体を通して、「通信が各要素技術の基盤で、その環境整備が重要と感じた。通信事業者がきめ細かいサービスを提供できるように、国土交通省にはタッグを組んで取り組みを進めてもらいたい」と話した。